

登山雑記

西日本空輸株式会社 代表取締役社長 伊藤 陽一郎*

体を動かすことは好きだが、生来不器用で人並みに出来るスポーツは何一つない。入社当時、部員不足からユニフォームを渡されたこともあったが「打てば凡フライか三振」、「守ればエラー」の連続で先輩の好意を仇で返す状態で「団体競技」は人に迷惑をかけるので駄目と思っていた折、山好きの女性からハイキングに誘われた。

その山は延岡市のシンボルともなっている「行勝山（むかばきやま）」という花崗岩の岩山で照葉樹林に囲まれ、中腹には約80mの見事な滝を抱えていて、山頂からは真っ青な日向灘が眺められた。この日から私の山行きが始まった。

その後、素晴らしい山仲間にも恵まれ、また、年末年始を問わず休日毎に家を空ける男と黙って？見守ってくれた家族や有給休暇の取りにくかった時代にそれを許してくれた上司・同僚のお陰で今日まで40数年間登山を続けることが出来た。平成11年8月には念願の「マッターホルン（4,478m）」に登頂した。また、登山のトレーニングで始めたランニングのお陰で59才の時「ボストンマラソン」を完走した。このように楽しい思い出がある反面、山の会の仲間がカラコルムで遭難し、家族を引率して現地に赴くという悲しい出来事もあった。

「何故山に登るのか？」と質問され「そこに山があるからだ！」と答えてエベレストに消えた著名な登山家があった。私には答えられないが、敢えて言えば「登山には苦しみがある。」からではないかと思う。「今回の苦しみ、困難を次回で少しでも改善しよう。」との考え、行動が次回の登山に結びつくのだと思う。

ところで、そんな苦しい登山から何を学んだかと言えば、

◇小さな一步一步の積みかさねの大切さとそれに耐える忍耐力の必要

登山は食糧や寝具等重い荷を背負って山頂を目指し何時間いや何日間も重力の法則に背いて歩く「非日常性」の重労働であり、途中で荷を投げ出したくなる時がある。それでは目的は達せられない。他のスポーツでは試合放棄は認められるかも知れないが、登山での途中棄権は重大事故に関連することにもなる。従って、どんなに辛く苦しくともその苦しみに耐え、のろくとも一歩、一歩と前進するその一歩が大切である。勿論、悪天候等では潔く撤退する必要はあるが。

◇登山は隠れた多くの人の協力があること

登頂は登山者個人または仲間との共同で行われるが、そこに至る迄には前述した家族や同僚達の温かい協力があった事を忘れてはならない。「俺に登った！」と自惚れてはならな

* (財)九州環境管理協会 評議員・元九州電力株式会社 取締役電源立地部長

い。「みんなに登らせてもらった。」そう思える人間になりたい。

◇連れて行ってもらう易しさと連れて行く難しさ

立派なリーダーの案内なら殆どの山は何の心配もなく登れるが、自分がリーダーで登るとなるとメンバーの技量・体調・装備・山の状況等に配慮が必要でとても苦労する。日頃から指図されるままに行動するのではなく、自分ならどうするという考えを持っておくことが大切である。

◇女性の能力の素晴らしさ

「男女共同参画社会」実現が昨今賑やかだが、登山の世界でも女性は素晴らしい能力を有している。生来の忍耐強さや特に柔軟な体を利しての滑らかなクライミングには驚かされる。一般社会でも門戸を開ければ女性の活躍出来る部門はもっと多くなると実感する。

◇まず常識ある社会人であること

所詮登山は遊びである。登山者である前に常識ある社会人でなければと思っているが、自分は未だ両方とも未熟のようだ。

◇利便性はもうゴメン

最近、高校時代の友と若い頃登った山によく出かけるが、当時一番奥の集落から何時間もかけて歩いた原生林の森が伐採され山頂近

くまで林道が延びている所が多い。確かに時間的には短縮され便利にはなったが、何百年もかけて生長した原生林は少しでも残しておきたい。これ以上の山の開発は止めてもらいたいと思う。

65才を過ぎ、40数年の会社生活を振り返って見ると、わがままと不器用で組織に馴染まず紆余曲折の人生だったが、いつも自分の周囲に立派な人が居て、山があった。若い頃、仕事が失敗ばかりでどうしようもなく、独りで山に逃げたこともあった。

しかし、そこで学んだことは「前に進む」ことしかなかったような気がする。暗い気持ちで歩く原生林の中で、いつもあの優しい、柔らかな空気が私の葉だった。

「山に登る人は変わり者」が多いといわれるが、変わり者であればこそ、自分の考えを組織の中に埋没させずに生きてこれたし、もし山がなかったら現在の自分はあり得なかったと思われる。

最近、高校時代の同期生と九州の山を中心に登山しているが、屋久島・大崩山系・祖母山系等の美しい自然の中で遊ばせてもらえる嬉しさを満喫しながら、是非ともこれを次世代に引き継がねばと思う昨今である。